

「辰野町立小・中学校あり方検討委員会」論点整理

◎検討事項

- (1) 少子化の進展に対応した新たな学校づくりに関する事項
 - ① 少子化の進展に対応した望ましい教育環境のあり方に関する事項
 - a : 小・中学校の配置及び通学区に関する事項
 - ・ 学びの適正規模、適正配置及び学校制度 等
 - b : 小・中学校間の連携のあり方に関する事項
 - ② 小・中学校と地域との連携のあり方に関する事項
 - a : 辰野町の良さ、特徴を生かした新たな教育課程等のあり方に関する事項
 - ・ 学校制度及び教育課程の概要 等
 - b : 教育課程外の活動のあり方に関する事項
 - c : 放課後及び課外活動の位置づけ及び地域連携に関する事項 等
- (2) 就学前から一貫した支援・指導のあり方に関する事項
 - ① 多様化する児童生徒への支援・指導のあり方に関する事項
 - ② 保育園から小学校・中学校の連携のあり方に関する事項
 - ③ 保育園・幼稚園から高等学校、短期大学まで揃った町の良さを生かした学校づくりに関する事項
- (3) その他、教育委員会が必要と認める事項

◎検討事項にかかわっての論点整理

- (1) 少子化の進展に対応した新たな学校づくりに関する事項

- ① 少子化の進展に対応した望ましい教育環境のあり方に関する事項

○学びの集団としての人数、複数の学級を確保し、活気ある良好な教育環境を継続的に維持していくために、町内の3つの小学校を何らかの形で集約（再編）したい。

○小・中学校の9年間で育てたい人間像に向け、9年間の連続した学び、活動が可能となるよう、小中一貫教育を推進したい。

- ・ 子どもたちが一定規模の集団生活の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばしていくことを大切にしたい。

- ・学年に複数の学級があることで学級編成替えが可能となり、子どもたちにとって人間関係がリセットできたり固定化された序列が解消されたりすることを期待したい。

・育てたい人間像として辰野町教育委員会では

①「広い視野と豊かな創造力を持ち、これからの予測困難な社会にあっても力強く生き抜く力を備えた人」

②「ふるさと『辰野町』に学び、故郷に誇りや愛着を持った人」

を定めている。

そして

① 確かな学力

② 豊かな人間性

③ 健康・体力

を身につけることで、「未来に向かって生きる（伸び行く）『たつのっ子』」を目指している。

- ・これをもとに、小学校と中学校が、同じ教育目標のもと、義務教育9年間を一貫した系統的な教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行う小中一貫教育により、子どもたちの学びが校種を越えても途切れなく紡がれていくことを期待したい。
- ・教職員にとっても小中一貫教育を行うことは、小・中の枠を越えて互いに連携・協働し合いながら、よりよい教育の創造を目指していくことが期待でき、子どもたちへの見守りも多くの教職員の目で連続してみていくことができる。

○学校を集約することにより生じる、通学や地域とのかかわり等の課題について配慮したい。

- ・学校を集約することにより「学校が遠くなり歩いて通えない」「道草ができない」、「学区が広くなることにより学校支援ボランティアのかかわりが難しくなる」、「学校と地域とのかかわりが希薄になる懸念が生じる」等の課題が生じると思われる。

これらの課題については、新たな学校を構想するなかで、検討していきたい。

② 小・中学校と地域との連携のあり方に関する事項

○新たな学校でも、学校と地域とで連携・協働して子どもたちを育てていくことを大事にしたい。

- ・辰野町には地域が学校を支える気風があり、学校と地域が育てたい子ども像を共有しながら連携・協働して子どもたちを育ててきた。子どもたちが9年間を通して辰野町の様々な人々との出会いの中で、自らの生き方を考えることができるよう、子どもたちと地域との一層のつながりを期待したい。
- ・町内の小・中学校では現在、地域の「ひと・もの・こと」を中心に多くのことを学んでいる。新たな学校でも、辰野町の魅力、特色を生かした教育課程を編成し、町への愛着を深めたり誇りを持ったりする心を一層育んでいきたい。
- ・学校支援ボランティア等学校と地域とで連携・協働して子どもたちを育てていくことを引き続き大事にしていきたい。
- ・子どもたちが地域の行事等に参画することにより、地域で地域の子どもの育てていくことも大事にしたい。

○自然体験、社会体験等五感を使った学び、キャリア教育等社会とつながる学びを大切にしたい。

- ・人生の中で最も感受性豊かな小・中学生期の子どもたちにとっては、実体験が重要である。子どもたちは、具体的な体験や事物とのかかわりをよりどころに、感動したり、驚いたり、疑問をもったりしながら学んでいく。今後ICTの活用がさらに進んだりAIが導入されたりしても、五感を使った実体験を「学び」の原点としたい。

○教育課程外の活動のあり方、放課後の子どもの居場所、課外活動の位置づけ及び地域連携については、今後別の機会、新たな場で検討していきたい。

- ・中学校部活動の地域展開、小学校放課後学童クラブのあり方等については、それぞれの場で検討を重ねていく。

(2) 就学前から一貫した支援・指導のあり方に関する事項

① 多様化する児童生徒への支援・指導のあり方に関する事項

○多様な背景を持つ全ての子どもたちが共に学び、共に育つ教育環境を検討したい。

- ・障がいのある子どもや学習面・行動面で著しい困難を示す子ども、複雑な家庭事情を抱える子ども、また、特異な才能を持つ子どもなど、多様な背景を持つ全ての子どもたちが共に学ぶことで、一人一人の子どもがその子らしく育っていくことを大切にしていきたい。
- ・不登校・不登校傾向の子どもや、人間関係の状況の変化（人間関係〈友だち・先生・家庭等〉、いじめ等）等一人一人の状況を踏まえた学びの場を提供する等して、誰一人取り残さない教育を進めていきたい。

② 保育園から小学校・中学校の連携のあり方に関する事項

③ 保育園・幼稚園から高等学校、短期大学まで揃った町の良さを生かした学校づくりに関する事項

○保育園・幼稚園から高等学校、短期大学まで揃った町のよさを生かした教育の推進に幅広く取り組んでいきたい。

- ・小・中学校の教育を充実させるために、幼保・小連携や幼児期の教育についても共に大事に考えていきたい。
- ・保育園・幼稚園から小・中学校、さらに高等学校から短期大学までそろった町内の教育環境を有機的に生かし、それぞれが抱えている教育諸課題に対応するため、町内各教育機関どうしの連携、交流による教育環境の整備・向上に引き続き取り組んでいきたい。